

さいたま市 まちづくりガイド

まちへの「おもい」の実現に向けて、
「まちづくり」への1歩を踏み出しましょう



目次

はじめに	P.1~2	まちづくりの必要性や、本書が対象とする「地域のまちづくり」とはどのようなものであるかまとめています。
まちづくりの流れ	P.3~4	地域のまちづくりの内容を、一般的な流れに沿ってまとめています。
きっかけを見つける	P.5~6	まちづくりを始める時 まちで気になっていることを整理する時
おもいを共有する	P.7~8	まちづくりを一緒に行う仲間を見つける時 具体的に何をしたらよいかわからない時 まちの将来像・目標を考える時
まちづくりに取り組む	P.9~12	まちづくりを地域の方々に理解してもらいたい時 地域のまちづくり計画を考える時 まちづくり活動を実践する時
継続的なまちづくり (PDCA)	P.13~14	より発展したまちづくりに向けて、継続的に取り組む内容をまとめています。
活用できる支援メニュー	P.15~16	まちづくり活動への支援メニューをまとめています。 まちづくりの取組が上手くできない時 活動に必要な資金に不安がある時
まちづくりツール	P.17~30	まちづくりの流れに沿ってまちづくりを進める際に参考となる取組や調査方法、ツールについて紹介しています。

はじめに

あなたは、「まちづくり」と聞いて何を思い浮かべますか？

皆さんの身の回りには、「まちづくり」によってできたものが沢山あります。

例えば…

子どもができれば
住みたくなるような、
ゆとりのある住宅街



思わず旅行に行きたくなる
歴史や文化、緑を感じるまち



子どもや高齢者、
体が不自由な人が歩きやすい
安全・安心な道



スーパーや公共施設
が身近にある
便利なまち



子どもが楽しく遊べる
公園



これらをつくってきた「まちづくり」には、「なんだか難しそう」、「専門家や市がやるもの」というイメージがあるかもしれません。

しかし最近では、「自分たちの地域を自分たちの手でつくり、守り、より良くしていく」というまちへの「おもい」の高まりから、住民団体等が担い手となった「まちづくり」も活発になっています。

実際に生活している皆さんの、「地域の個性をもっと大切にしたい!」、「地域のみんなが不自由に感じていることをより良くしたい!」というまちへの「おもい」から、まちづくりは始まります。

まちへの「おもい」の実現に向けて、 「まちづくり」への第1歩を踏み出しましょう

一言に「まちづくり」といっても、その内容は多種多様で、地域によってさまざまな取組が行われています。

この「さいたま市まちづくりガイド」は、一団のまとまりのある地域※を対象に取り組まれる、皆さんの「おもい」の実現に向けた「まちづくり」のきっかけやヒントが見つかるように作成しています。



※ 住宅地や商店街、新たな市街地が形成される場所など

まちづくりの流れ

自分たちができそうなことから少しずつまちづくりに取り組んでいきましょう。ここでは、また、まちづくりを進めるためには、まちづくりを一緒に取り組む仲間との話し合いの場づくりします。

STAGE 1

きっかけを見つける

- 普段の生活で不便に思うことやまちの良いところ、変化を感じることに目をつけてみましょう。
- まち歩き等を行い、気になるところを探し、まちの良いところや問題点を考えましょう。

STAGE 2

おもいを共有する

調べてみよう！

- まちについて勉強し、まちの現状をまとめましょう。
- まちづくりを進めるための「方法や事例」を勉強しましょう。

まちの将来像を語ろう！

- まち歩きやワークショップを開催し、まちの将来像を考えましょう。

勉強と話し合いを繰り返しながら
まちの将来像を考えましょう。

STAGE 3

まちづくりに取り組む

みんなに伝えよう！

- 地域の方々に向けた広報や説明会等で自分たちのまちづくりを伝えましょう。

考えをまとめよう！

- これまでに話し合ったまちの現状や問題点、将来像、さらに勉強した結果を基に、まちづくりの考え（計画）をまとめましょう。

活動しよう！

- 将来像を実現するために、まちづくり活動を進めていきましょう。

STAGE 4

継続的なまちづくり

- 「まちづくりに取り組む」に示す3つを何度も繰り返しながら、継続的にまちづくりに取り組んでいきましょう。→**継続的なまちづくり（PDCA）**

ちづくりを進める時のおおまかな流れをご紹介します。

りも必要になります。まちづくりの流れに合わせて、仲間づくりや場づくりについてもご紹介



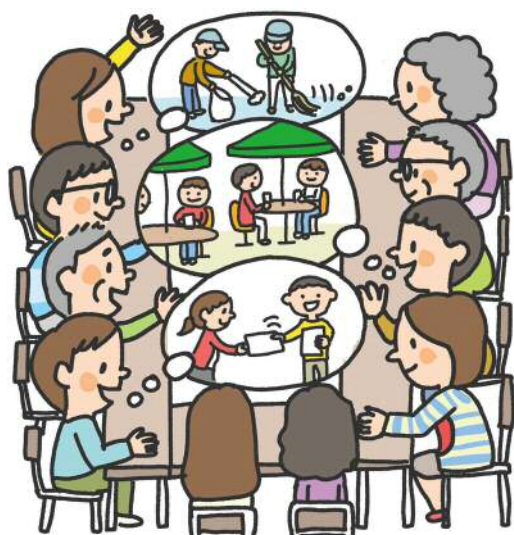
まちづくりの仲間集め

- 友人や近所の人に声をかけ、同じおもいを持ったまちづくりの仲間を集めましょう。



まちづくり団体の立上げ

- 仲間とまちづくりについて話し合える場をつくりましょう。
- 仲間がある程度集まり、まちの将来像や目標が決まったら、まちづくりの内容・方針や活動資金、メンバーと代表者、活動エリア等を決め、まちづくり団体として立ち上げましょう。



団体を運営し仲間を増やす

- 地域の方々に向けた広報や説明会を通じて、定期的に団体のメンバーを募集し、まちづくりを一緒に行う仲間を増やしましょう。

まちづくりの 仲間や場づくり

STAGE 1

きっかけを見つける

まちづくりでは、普段の生活で不便に思うこと、まちの良いところや変化を感じる事等、まちをより良くしたいという「おもい」に気づき、まちづくりに興味を持つ身近な仲間と話し合い、考えることが、第一歩（きっかけ）となります。

仲間を集めて、まち歩きなどをしながら、**まちの気になるところ**（まちの良いところや不便に思うこと、変化を感じる事 等）を見つけましょう。また、それらを基に、仲間とまちの**良いところ**や**問題点**について話し合い、整理しましょう。



▲ まち歩きの様子

まちづくりツール①

まち歩きのやり方・チェックリスト →p.17~18



▲ まちの良いところや問題点について話し合い、意見を共有・発表する様子

まちづくりツール②

まちの良いところと問題点のまとめ方 →p.19~20

★まちづくりの仲間や場づくり①★

まちづくりの仲間を集めよう！

まちの現状や課題を話し合う時には、様々な視点からまちを見ていくために、**まちづくりの仲間を集めてみましょう。**

仲間を集める時には、このような方々に声をかけてみてはいかがでしょうか？

●近所の方々・自治会の方々



自分と同様の環境で生活している近所の方々・自治会の方々は、同じようなまちへのおもいを抱えているかもしれません。また、自治会と協力することで、まちづくりの取組を地域に広げやすくなります。

●子どもが通う学校のPTAの方々



子育てを通じて、子どもに関連するまちの気になるところに気づきやすいです。このため、特に「地域の子どものために、まちの●●をより良くしたい」という強い「おもい」を持った人がいるかもしれません。

●商店街のお店の方々



あなたが住む地域の商店街や商工会は、地域の活力を支える団体であり、地域の変化に敏感な方が多いです。このため、商店街のお店の知り合いに声をかけることで、地域の変化・気になるところや、「にぎわいのあるまちにしたい」という「おもい」を持った方に出会えるかもしれません。

●地域のサークル活動などに参加しているの方々



自分が参加している地域のサークル活動等に参加している方々は、自分が最も話しかけやすい人々だと思います。自分のまちへの「おもい」を話すことで、あなたの「おもい」に共感し、仲間になってくれそうな人や、知り合いで同じような「おもい」を持った人を紹介してくれるかもしれません。

●まちづくりに詳しい方など

仕事や趣味でまちづくりを行っている（行っていた）人は、まさしく身近なまちづくりの専門家であり、自分のまちへの「おもい」を実現する上で強力な味方となるでしょう。また、まちづくりを進める上での悩みや、まちづくりの方法について、気軽に相談できる人となるでしょう。

おもいを共有する

まちづくりを始めたきっかけである「おもい」を実現するため、まちづくりの方法を仲間や地域に住む人々と共有し、一緒に協力しながら取り組みましょう。

まちづくりは、地域やまちの課題などに応じて解決策が様々です。まずは、まちの背景やまちづくりの方法などを調べましょう。そして、まちへの「おもい」を共有しながら、今後のまちづくりについて考え、まちの将来像をまとめましょう。

💡 調べてみよう！

まちの背景や特徴など、あなたの「まち」について調べ、正確に知ることで、**まちの特徴を生かしたまちづくり**に取り組めるようになります。

また、他地域のまちづくりの取組事例などを参考に、「**まちづくりの方法**」について調べておくことも大切です。

ここで挙げている内容はあくまで一例です。まずは、興味を持った内容から少しずつ勉強してみましょう。

■ 「まち」について調べる内容の例

- ・ 歴史・文化（まちの成り立ち、歴史的な施設 等）
- ・ 人口（子どもや高齢者、移住者、観光客がどの程度いるのか 等）
- ・ 産業（昔からの産業、近年増えている産業施設 等）
- ・ まちの構造（地形、道路、鉄道、河川、公園 等）
- ・ まちにある施設（住宅団地、商店街・大規模商業施設、工業団地 等）
- ・ 市の都市計画に関する情報（用途地域^{※1}、都市計画道路^{※2} 等）

☆まちについて調べた内容は、まちの現状としてまとめましょう。

まちづくりツール③

「まち」についての調べ方と現状のまとめ方 →p.21~22

■ 「まちづくりの方法」について調べる内容の例

- ・ 他地域でのまちづくりの取組内容（理想とするまちを実現するまでの過程）
- ・ まちの問題の解決策、目指したいまちの実現方法
- ・ まちづくりに取り組むに当たり活用できる市の制度 等

※1 都市計画法に基づき、住宅地、商業地、工業地等の具体的かつ適正な土地利用と建築物等の誘導を図るために定める地域地区です。

※2 都市計画法に基づき、円滑な都市活動を支え、都市生活者の利便性の向上、良好な都市環境を確保するうえで必要な道路です。一定の手続によって決定される都市施設の1つです。

💡 まちの将来像を語ろう！

まちの将来像を設定することは、**みんな**で共有する目標をつくることです。今後、具体的なまちづくりを進めていく上で、まちづくりのきっかけを思い返し、進むべき方向性を見失わないためにも、大事です。

まち歩きやワークショップを開催し、仲間とまちの現状や問題点を共有し、**まちの将来像を考えましょう。**



まちづくりツール④

まちの将来像のまとめ方 →p.23~24

★まちづくりの仲間や場づくり②★

まちづくり団体の立上げ

まちづくりを考えていく地域や、まちの将来像などが決まったら、話し合いに参加している方々を中心に、**まちづくり団体を立ち上げましょう。**

まちづくり団体を立ち上げる時には、次の内容を整理し、規約や会則をつくりましょう。

- ・団体の名称や活動地域、拠点の所在地
- ・目的
- ・活動内容
- ・会員についての規定
- ・役員についての規定
- ・会議の持ち方についての規定
- ・団体の運営についての規定

まちづくりツール⑤

団体の規約・会則の作成方法
→p.25~26

団体として活動することで、様々なメリットがあります

- ・地域にお住まいの方々へ、まちづくりの取組の内容を説明・周知し、取組の理解や協力が得やすくなります。

→p.12 まちづくりの理解を得よう！

- ・団体の活動費・運営費について、市の支援制度である「まちづくり支援補助金交付制度」を活用することができます（活用できる団体の要件がありますので、注意してください）。

→p.15~16 まちづくり支援補助金交付制度

まちづくり支援制度の活用例

まちづくり専門家 派遣制度

詳細は p.15~16

「まちづくりの方法」について知りたい時や、まちの将来像を考える時などに、まちづくりの専門家からアドバイスを貰うことができる制度です。

まちづくりに取り組む

これまで話し合ってきた内容を地域の方々と共有するため、目に見える形にすることや、どんな小さなことであっても成果として積み重ねていくことが大切です。

また、自分たちのできる範囲のことから取り組み、まちづくりの成果を実感していくことで、より良い活動につなげていくことができます。

皆さんのまちづくりの考え（計画）を形にしたり、地域の方々に協力してもらいながら、まちづくりの取組を実践しましょう。

💡 考えをまとめよう！

これまでの話し合ってきた内容を地域のまちづくりの考え（計画）をまとめることは、これからのまちの**将来像を明確**にするとともに、地域の方々とも**目標を共有**することができます。

（地域の方々に協力を得るための具体的な方法は p.12 で紹介します）

まちづくりの考えは、地域の課題や取り組む内容により、様々なまとめ方があります。ここでは、まちづくりの考え（計画）の一般的なまとめ方をご紹介します。

1

まちの現状や良いところ、問題点

まず、対象となる地域を地図で示しましょう。

次に、まちの現状や良いところ、問題点について勉強し、話し合った結果を文章でまとめたり、地図に記入して整理しよう。



話し合いの結果を
地図にまとめた例 ▶



まちの将来像について話し合った結果をまとめましょう。また、いくつかある将来像を一言で表すまちづくりの目標や、キャッチコピーも考えてみましょう。

◆まちづくりの目標の例

- ・○○地区の優れた生活環境を守り、更により良い街区の整備・改善と景観形成に向けてのまちづくりの構想を計画し、その実現を図る。
- ・地域の生活道路を改善し、子どもや高齢者にやさしいまちを実現する。
- ・地域の歴史資源である○○を中心に、多くの方が来訪し、にぎわいのあるまちの実現を図る。

まちの将来像を実現するために取り組む内容をまとめましょう。

まちづくりの取組を進めていく概ねの予定をまとめましょう。

テーマ	取り組み内容・イメージ	短期 1～3年	中期 4～6年	長期 7～10年
地域の歴史を伝えるまち	歴史的な建物や場所の維持・活用	● ガイドライン作成に向けた情報収集・検討 × 先進地視察 ● まち歩きイベント開催	● × 地域観光回遊ルートの検討 ● × 地域観光回遊ルートの検討 ● 歴史的な建物を活用した集客施設整備に向けた検討・整備	● パンフレット等の観光促進策の検討・実施 ● 回遊ルートでの観光案内方法の検討
みどりが多いまち	生垣や庭の木を維持 ○○○の花壇に毎年花を植える	● 地域まちづくりの考え	● 地域住民への生垣や庭の木の管理促進 ● 空き家の樹木の管理方法の検討	● ○○花壇づくり（通年） ● 空き地での花壇づくりに向けた検討
周辺と調和する美しいまちなみ	看板や建物の色などのガイドラインを作成する	● ガイドライン作成に向けた情報収集・検討 ● 建物・看板実態調査	● ガイラインの運用 ● 定期的な運用状況チェック ● まちなみに配慮した新しい建物・看板のデザインコンペの開催	

× 地域まちづくりガイドラインの策定

○○の歴史に触れられるまち
 目標..観光客数●●人
 ○×の実現

▲取組のスケジュールの整理イメージ

💡 活動しよう！

まず、今の自分たちでもできそうなことから始めてみるのが大切です。その際には、**年間の活動スケジュール**や必要になる**活動費・運営費**を考えましょう。これらが考えられたら、実際に**まちづくり活動に取り組んで**みましょう。

1 まちづくり活動に必要な活動費・運営費やスケジュール

●まちづくり活動のスケジュール

まちづくり活動に取り組む時の、年間のスケジュールを考えましょう。

●まちづくり活動に必要な活動費・運営費

まちづくり活動の内容やスケジュールを基に、年間に必要になる活動費・運営費を計算してみましょう。

必要な活動費・運営費（例）

- ・活動・イベントに必要な費用
- ・定例会などの会場費
- ・定例会などの資料の印刷費
- ・チラシやニュースの印刷費
- ・備品購入費や消耗品費
- ・講師（まちづくり専門家 等）の謝礼金

等

活動の収入源（例）

- ・まちづくり団体の会費
- ・活動やイベントの売上げ
- ・助成金（市のまちづくり支援補助金 等）
- ・まちづくり活動に対する地域住民からの寄付金
- ・企業からの協賛金

等

活動費・運営費と収入源のバランスを考えながら、無理のないまちづくり活動・スケジュールを考えましょう！

まちづくり活動に必要な活動費・運営費について、市では「まちづくり支援補助金交付制度」により費用の一部を助成しています。

まちづくり支援制度の活用例

まちづくり支援補助金交付制度
(要件あり、詳細は p.15~16)

集会や勉強会の会場費、広報誌の印刷費、まちづくりの計画の策定上必要になる経費など、まちづくり活動に必要な費用の一部を市が助成します。

2

まちづくり活動の実践

まちづくり活動のスケジュールや、必要な活動費・運営が考えられたら、**まちづくり活動に取り組んで**みましょう。

💡 みんなに伝えよう！

地域の方々へ、自分たちが考えたまちづくりの計画やまちづくり活動の内容を**周知（広報活動）**することで、自分たちが考えるまちの将来像に賛同して、活動に協力してもらうことができます。

まちづくりニュースやポスターなどにより**広報活動**を行い、またアンケートやヒアリング調査で**地域の方々の意見を把握**しながら、みんなに自分たちのまちづくりの取組を伝えましょう。



▲ まちづくりニュースの例

▲ 勧誘ポスターの例

まちづくりに対して興味を持っている人は、これらの広報活動をきっかけに、まちづくり活動に参加・協力してくれるかもしれません。

広報活動をする際には、**まちづくりを一緒に行う仲間を募集**しましょう。

まちづくりツール⑤

まちづくりの考え（計画）・活動の広報活動の方法 →p.27～28

まちづくりツール⑥

アンケートやヒアリング調査をしよう →p.29～30

★まちづくりの仲間や場づくり③★

団体を運営し仲間を増やす

まちづくりは、まちづくりに取り組むメンバーだけでなく、まちづくりの対象となる地域にお住まいになる方**全員のための活動**です。

広報活動を行う中で、広く地域にお住まいになる方々の意見を聞きましょう。そうすることで、まちづくりの理解者や一緒に活動するメンバーを増やし、**円滑にまちづくりを行う**ことができるようになります。

また、まちづくりの内容や活動に反対する意見が出たら、その意見に真摯に向き合い、まちづくりの**内容やまちづくり活動を見直し**ましょう。

継続的なまちづくり（PDCA）

これまで行ってきたまちづくりについて、何度もメンバーと話し合い、これからの内容を考えていくことが大切です。

また、まちづくりのメンバーの募集を継続的に行い、団体を拡大して活動の内容を充実させていくことも大切です。

まちづくりに実際に取り組んでみての反省点・改善点や地域の方々からの意見を踏まえ、計画を見直し、地域の状況の変化に柔軟に対応しましょう。

もし、まちづくりが行き詰まった時は、過去の話し合いの資料も見返しなが、もう一度同じ内容を話し合う（見直す）ことも必要です。また、まちづくり専門家派遣制度を活用し、専門家・第三者から客観的にまちづくりの内容を見てもらうことも効果的です。

Column

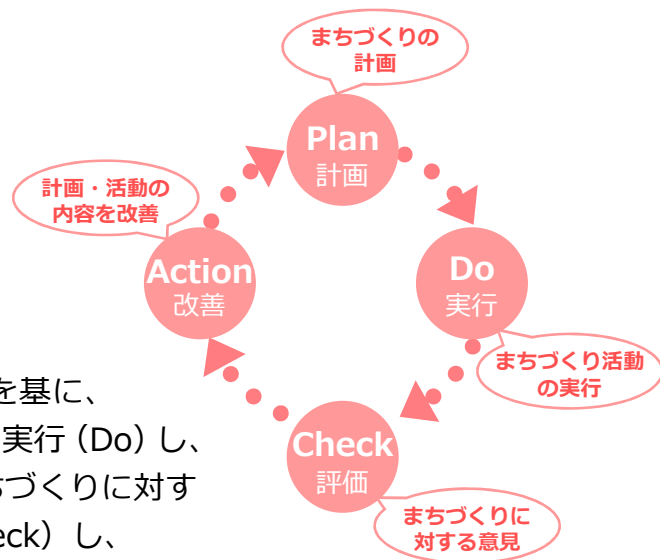
PDCA サイクルとは？

PDCA サイクルとは、**Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）**の4段階を繰り返すことによって、物事を継続的に改善するという考え方です。

地域のまちづくりにおいても、

- ・まちづくりの計画（Plan）を基に、
- ・実際にまちづくり活動として実行（Do）し、
- ・地域にお住まいの方からまちづくりに対するご意見を頂いて評価（Check）し、
- ・ご意見を基に、まちづくりの計画や活動の内容を改善（Action）することが大切です。

▼ PDCA サイクル



まちづくり支援制度の活用例

まちづくり専門家 派遣制度

詳細は p.15~16

実際にまちづくり取り組んでいく中で、反省点・改善点や地域の方々からの意見を踏まえて、今後の取り組み方を考えていく際に、まちづくりの専門家からアドバイスを貰うことができる制度です。

まちづくり活動に慣れてきたら・・・

まちづくりの計画を立てて、何年かまちづくり活動に取り組み、地域の方々から自分達のまちづくりに対する協力が得られてきたら、自分たちの「おもい」を実現するためにより発展的なまちづくりを目指していきましょう。

● より発展的なまちづくりを目指しましょう

まちづくりに慣れてきたら、より発展的なまちづくりを目指して地域、行政、民間事業者がそれぞれの強みを活かして、役割と責任を担いつつ、協働によるまちづくりに取組んでいけるようにしましょう。

● まちづくり活動の資金を充実させましょう

より発展的なまちづくりや継続的にまちづくりの活動を行っていく中で、事業費が増大し、資金の調達が必要になる場合があります。

行政の支援や民間の支援を上手く活用しながら、まちづくり活動の資金を充実させていきましょう。

● まちづくり活動の資金を充実させる例

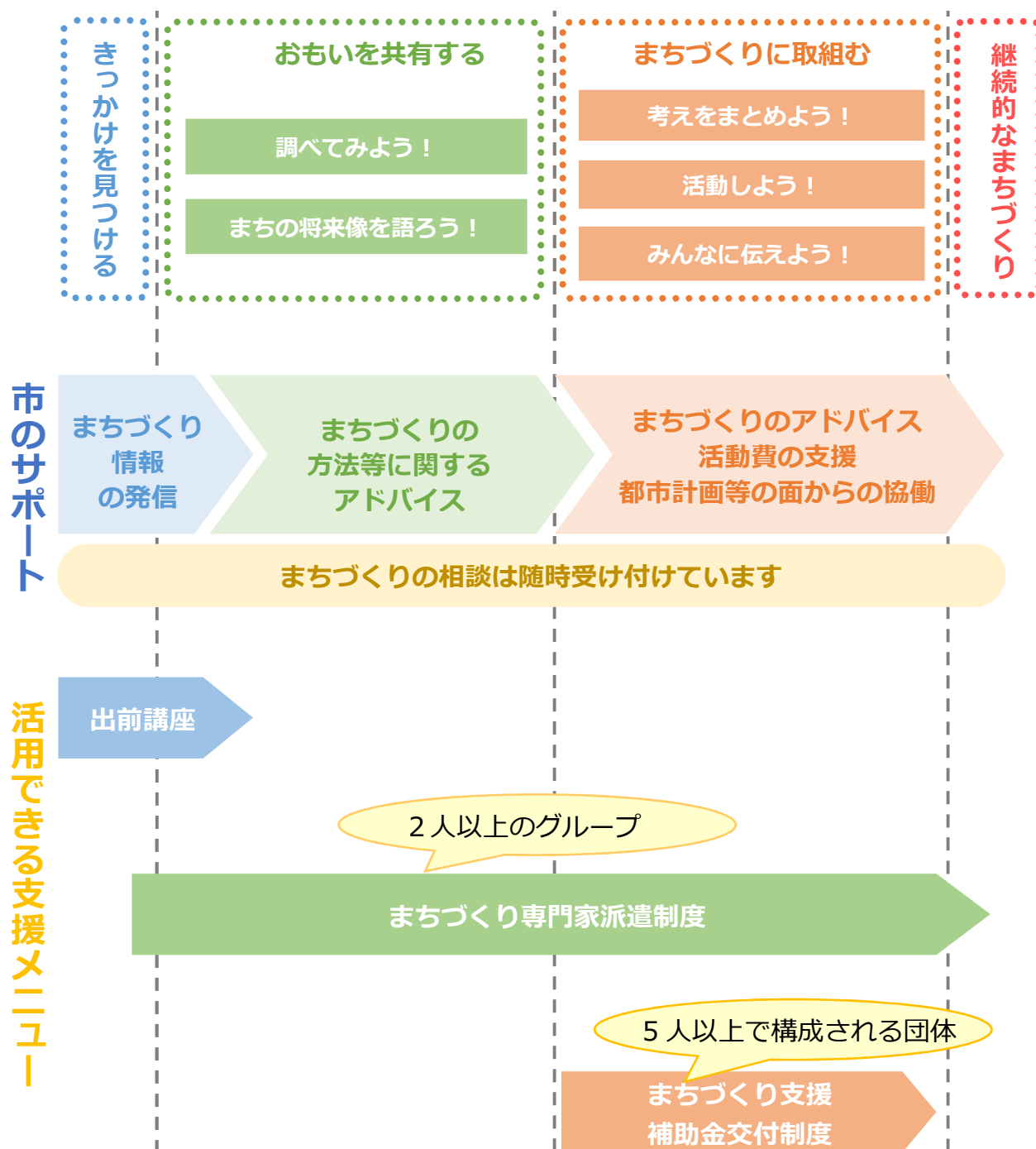
- 地域住民やまちづくりを行う地域の企業から、寄付金や協賛金を集める。
- 市や国、その他の機関のまちづくり補助金・助成制度を調べ、応募してみる。
- クラウドファンディング[※]で色々な人から資金の提供を募る。

※ インターネットを通して自分の活動などを発信し、活動に共感した人や応援したいと思ってくれた人から広く資金を集める方法です。

活用できる支援メニュー

まちづくりの流れに応じた、活用できる支援メニューをご紹介します。

■まちづくりの流れと支援メニューの関係図



※ こちらで紹介する市の支援制度には、要件で紹介している内容以外にも細かな要件があります。詳細は、市のホームページや各制度のパンフレットをご覧ください、また制度の担当課とよく相談してください。

■ 出前講座

概要	市民の皆さんが開催する集会や会合等に市の職員が伺い、市の施策や制度、事業等についてわかりやすく説明します。
要件	会場の用意が必要です。出前講座を希望する1か月前までに、テーマの担当課に申込書を送付してください。
主なテーマ	<p>○「地区のまちづくり」を支援する制度をご存じですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主的なまちづくり活動を支援する制度についてご紹介します。 (都市局 まちづくり推進部 まちづくり総務課) <p>○都市計画ってなんだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画の基本を学び、さいたま市の都市計画についてご紹介します。 (都市局 都市計画部 都市計画課) ...など

■ まちづくり専門家派遣制度



概要	まちづくりの専門家から、まちづくりに関する様々なお悩みの解決策について、アドバイスを受けられます。まちづくり専門家の派遣に必要な費用は市で負担します。
要件	申請書(まちづくり専門家派遣申請書)の提出が必要です。まずは、制度の活用について、事前に相談してください。

■ まちづくり支援補助金交付制度



概要	集会や勉強会の開催、広報誌の発行、まちづくりの計画の策定など、まちづくりの活動に必要な費用の一部を市が助成します。
要件	市街地の計画的な整備又は地域における良好な環境、及び地域の価値の維持向上を推進する団体で、自主的なまちづくりを行う団体が対象となります。補助金の交付期間は原則5年間です。

まずはこちらにご相談ください！

さいたま市 都市局 まちづくり推進部 まちづくり総務課

制度の詳細やまちづくりに関する相談、まちづくりのお悩みについて、お気軽にご相談ください。

※連絡先については冊子の裏面をご確認ください

まちづくりツール

まちづくりツール①

まち歩きの様子・チェックリスト

実際にまちを歩いてみて、気になったことをチェックしながら、まちの良いところや問題点(不便に思うこと、変化を感じることなど)を見つけてみましょう。

■まち歩きのとあると便利なもの



画板・チェックリスト

(チェックリストは次ページに記載)



まちの地図



カメラ



画板や地図などを片手に、まちを歩きましょう。

歩きながら**気になるところ**(不便に思うことやまちの良いところ、変化を感じること)は、**地図に書き込んだり、チェックリストをつけたり**します。

また、写真として記録することで、話し合いや広報活動に活用することができます。

まち歩きの際に
使おう！！

■チェックリスト

〈まちの安全〉

- 地震や洪水などの災害があった時に、近所の人と助け合いながら避難できる体制をつくりたい。
- 大雨の時に川があふれていたり、建物が浸水したりするのを改善したい。
- 地震の時に倒壊するおそれのある、道路沿いのブロック塀を改善したい。

〈まちの交通状況や道路〉

- 車のすれ違いが大変な道路や、歩く場所のない道路を改善したい。
- 夜通る時にちょっと怖い、街灯の少ない道路を明るくしたい。
- 歩道を設けたり、車の通りを減らしたり、見通しを良くしたりして、歩きやすい道路にしたい。
- 子どもの登下校が心配だ。子どもが安心して歩ける道路にしたい。

〈まちの景観〉

- 古くからの風情あるまちなみを次の世代にも残したい。
- 地域の歴史的な建物や資源、みどりや水辺等を生かして、もっと人を呼び込みたい。
- まちなみの色や建物・看板の形を統一し、居心地の良いまちをつくりたい。

〈まちの緑化・環境〉

- 近くの空き地や使われていない農地を、公園や市民農園など、みんなが利用できるようにしたい。
- 木々や田畑、広場や庭先の花など、まちの緑をもっと増やしたい。
- 近所の水辺（川や池など）の、雑草等による環境の悪化を改善したい。
- ゴミのポイ捨てなどを防止し、ゴミのないきれいなまちなみにしたい。

〈まちのにぎわい〉

- 一休みしたり、子どもが遊べたり、近所の人と雑談ができる公園や広場が欲しい。
- 公園や広場、道路などにイルミネーションをつけて、夜も楽しめる空間をつくりたい。
- 地域に営業していないお店が増えて、さみしくなっている。もっと活気のあるまちにしたい。
- 近くの公園や道路で地域のイベントが開けるようにしたい。

〈まち全体を通じて〉

- 地域に今までなかった高い建物やお店等が増えてきた。今までのまちなみを守りたい。
- 住みやすいまちを目指して、地域にお店や公園等を増やしたい。
- 高齢者にも住みやすい住環境や使いやすい道路、公園、お店等の施設を整備したい。
- 家が密集している、窮屈なまちを改善したい。
- 使われていない土地や農地が多い。もっと建物を増やして人が住めるようにしたい。

このチェックリストは、まちへの「おもい」を見つけるヒントとなるよう作成しています。内容は、あくまで一例ですので、様々な角度や視点でまちを見てください。

まちづくりに取り組む仲間と、まちの良いところや問題点について感じたことを、話し合いを通じて共有し、みんなの意見をまとめていきましょう。

■話し合いの時に必要なもの（一例）

付箋やマーカーは、まちの良いところ、気になることなど、内容毎に付箋の色を変えられるようにすると、まとめるのが簡単になります。



模造紙・地図

(できれば大きなもの)



付箋

(できれば何色か用意)



マジック・ペン

(できれば何色か用意)

話し合いの様子や、地図や模造紙にまとめた意見を記録するのに便利です。

話し合いの場を和やかな雰囲気にすることで、活発な意見交換が期待できます。



カメラ



飲み物やお菓子



事前にまち歩きをして、まちの状況を確認し、良いところ、気になるところを見つけておくと、話し合いで意見が出しやすくなります。

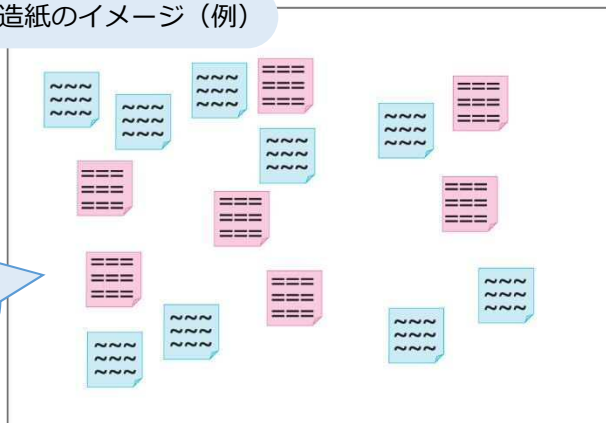
■まちの良いところと問題点をまとめるための話し合いの方法

①まちの良いところや気になるところの意見を出しましょう

まちの良いところや気になるところを付箋に書いて、地図や模造紙に付箋を貼り付けながら意見を出し合います。

模造紙や地図を囲んで、各自が意見を付箋紙に書いて貼り付けます。

模造紙のイメージ（例）

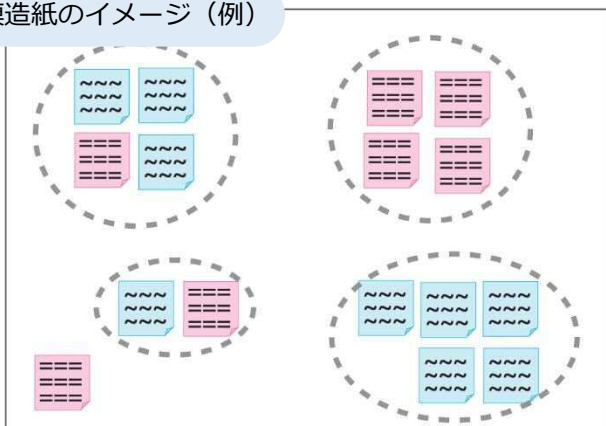


②まちの良いところや気になるところの意見を整理しましょう

地図や模造紙に貼られた付箋を、似たような内容や場所に関する意見毎に、付箋を並べ替えます。

並べ替えた時に、同じような内容や場所に関する意見がたくさんあるものは、みんなが共通して考えていることです。

模造紙のイメージ（例）

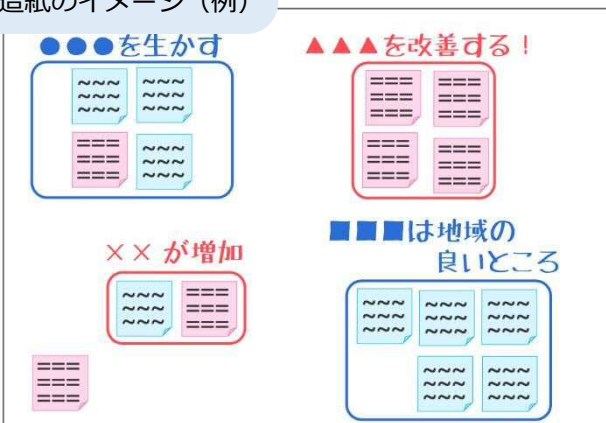


③意見からどんなまちにする必要があるのか考えましょう

並べ替えた意見を踏まえて、どんなまちにする必要があるのか考えます。考えた結果は、並べ替えた意見のまとめとして、地図や模造紙に書き込みましょう。

また、まとめた意見は最後にみんなで確認し、ふり返りましょう。

模造紙のイメージ（例）



話し合いの内容は、文章や地図、写真で記録し、これからいつでも見返せるようにしておくことが大切です。こうすることで、今後まちづくりの考えをまとめる時 (p.19~) やまちづくり活動を実践する時 (p.21) に役立ちます。

まちの背景や特徴を把握し、まちの特徴を生かしたまちづくりに取り組むために、「まち」について調べ、まちの現状をまとめましょう。

■ 「まち」について勉強する

「まち」について勉強する時は、次の資料を調べると効果的です。

● 地図（「さいたま市地図情報」など）

まちの構造やまちにある施設（住宅団地、商店街・大規模商業施設、工業団地等）などがわかります。

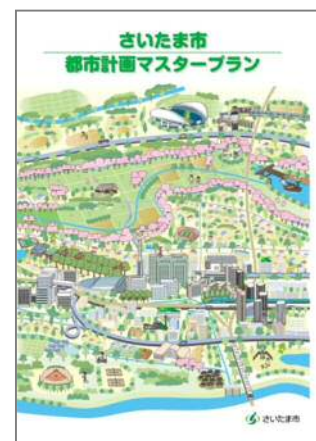
また、「さいたま市地図情報」では、市の都市計画に関する情報（用途地域・都市計画道路等）も調べられます。



白図（地形図）はまちの現状・問題点やまちづくりの方向性等をまとめる時にも使えます。

● さいたま市都市計画マスタープラン

「さいたま市都市計画マスタープラン」には、さいたま市全体の現状や課題、市が考える地域のまちづくりの方向性などがまとめられています。



● 市や地域の歴史に関する図書、地域の博物館

歴史や文化は、近くの図書館に行き、市や地域の歴史に関する図書を読んだり、地域の博物館に行くと勉強できます。

また、地域に歴史や文化に詳しい人がいたら、その人に聞いてみるのもよいでしょう。

●オープンデータの活用

地域における課題の解決などを目的として、国や地方公共団体ではオープンデータを公開しています。

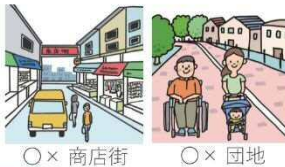
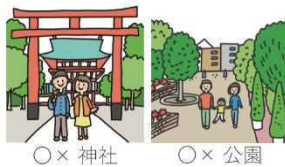
例えば、さいたま市のホームページで公開している「オープンデータカタログ」や「さいたま市統計書」には、人口などの統計情報や、防災関連情報などが整理されています。

■「まち」の現状のまとめ方

「まち」について勉強した内容は、まちの現状としてまとめておきましょう。まとめ方は様々ですが、以下にまとめ方の例を紹介します。

1. 歴史

年次	できごと
〇〇年	観光名所の〇〇神社ができる
〇〇年	□□等を残した〇〇氏が誕生
〇〇年頃	〇× 地域と呼ばれ始める
〇〇年頃	〇× 商店街が形成され始める
〇〇年	□□災害が発生
〇〇年	国道〇号線が完成
〇〇年	〇× 公園が完成
〇〇年	〇× 住宅団地が完成
〇〇年	〇〇住宅団地が完成
〇〇年	〇× ショッピングセンターが完成

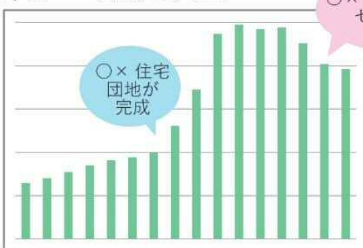


まちの歴史については、写真や図も使いながら文章で整理してみましょう。

年表などを作成すると、地域の歴史が他の人にも伝えやすくなります。

また、地域の施設（道路や公園、住宅団地、商業施設等）が完成した時期も調べると、まちへの影響を考える時のヒントになります。

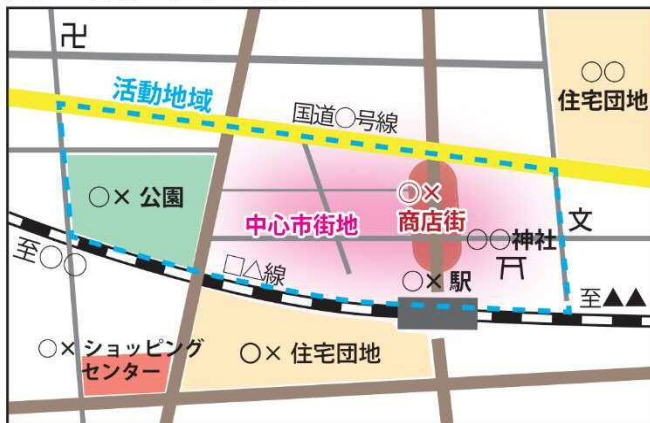
2. 〇× 地域の人口



- 〇× 住宅団地が完成し人口が急増した。
- 近年人口が減少していたが、〇× ショッピングセンターが完成し、減少が緩やかになる。

人口や産業など、年毎に数字で整理できるものは、文章のほかに、グラフなどを作成するとわかりやすくなります。

3. 〇× 地域のまちの構造



まちの構造やまちにある施設、市の都市計画に関する情報等については、地図（白図）に書き込む形で整理するとわかりやすくなります。

また、自分たちがまちづくりを行う活動範囲内はもちろん、その周辺の情報まで整理すると、まちづくりを行う活動範囲内のまちの強みや周りから受ける影響を考えるヒントになります。

上記はあくまで一例です。このほかにも必要だと思ふ内容は、積極的に調べ、整理しましょう。

まちの現状や良いところ、問題点についてまとめた結果を基に、**理想のまちの将来像**を考えましょう。

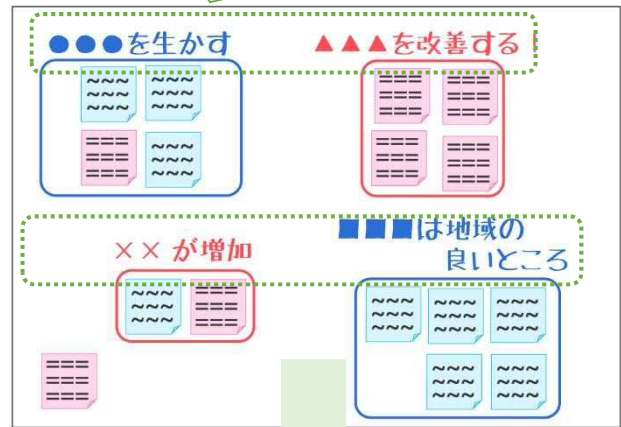
※ 話し合いに必要なものは、P.19の「まちの良いところと問題点のまとめ方」を参考にしてください。

① **まちの現状や良いところ、問題点を再確認しましょう**

まずは、まちの良いところや問題点をまとめた結果（→ p.19～20）やまちの現状についてまとめた結果（→ p.21～22）を見返しましょう。

この時、模造紙の一番上に、まちの現状と良いところ、問題点を簡単にまとめておくと、まちの将来像をイメージしやすくなります。

「どんなまちにする必要があるのか」まとめた部分がまちの将来像のヒントになります。



まちの現状や良いところ、問題点を簡単にまとめる

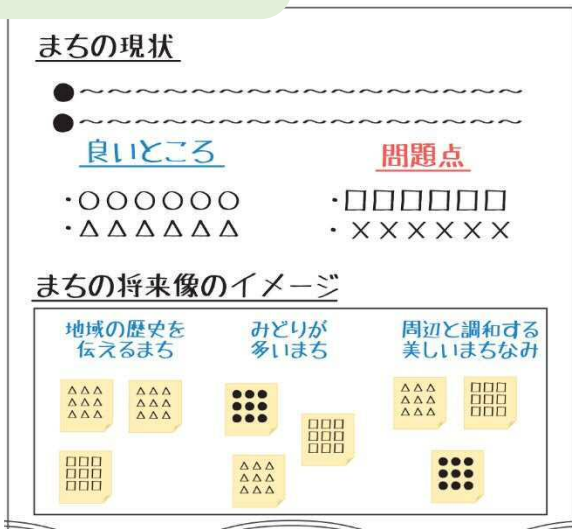
② **まちの将来像をイメージしましょう**

まちの現状や良いところ、問題点を基に、理想のまちの将来像をイメージしましょう。

まずは、まちの将来像について思いついたアイデアを、付箋に書き、模造紙に張りながら意見を出し合います。

ある程度意見が出てきたら、似たような意見ごとに付箋を並べ替え、内容を整理しましょう。

模造紙のイメージ（例）



③まちづくりの取組を考えましょう

まちの将来像の内容ごとに、その将来像を実現するための方法（まちづくりの取組）を考えましょう。

まちの将来像のイメージを考える時と同様に、付箋紙を活用しながら、意見を出し合い、内容をまとめていきます。

「まちづくりの方法」について勉強した内容を踏まえて、まちの将来像を実現するためまちづくりの取組を考えます。

もし、まちの将来像を実現するための方法が思い浮かばない場合は、他地域でのまちづくりの取組内容について調べてみるとよいです。

また、まちづくり専門家派遣制度（→p.29～）を活用し、専門家に相談してみるのも効果的です。

模造紙のイメージ（例）

まちの現状

● ~~~~~
● ~~~~~

良いところ 問題点

・○○○○○○○ ・□□□□□□
・△△△△△△ ・×××××××

まちの将来像のイメージ

地域の歴史を伝えるまち △△△ △△△ △△△ △△△ △△△ △△△	みどりが多いまち ●●●●● ●●●●●	周辺と調和する美しいまち △△△ □□□ △△△ □□□ △△△ □□□
--	----------------------------	---

まちづくりの取組

歴史的な●●●を維持する ●●● ●●● ●●● ●●●	生垣や庭の木を維持する △△△ △△△ △△△ △△△ △△△ △△△	店の看板の色を統一する □□□ △△△ □□□ △△△ □□□ △△△
	■●●■に毎年花を植える ●●● ●●● ●●● ●●●	建物の色のルールを決める ●●● □□□ ●●● □□□ ●●● □□□

【参考】まちづくりの取組の例

- ・地域の土地や建物のルールづくり
- ・高齢化など地域の居住者の変化に合わせた総合的な将来像の計画
- ・防災コミュニティ形成による防災対策
- ・空き地・農地のコミュニティ広場・市民農園化
- ・生け垣、庭先の花など、住宅地での緑化の推進
- ・地域の清掃活動
- ・安全・安心なみちづくり（道路の拡幅、車の交通量の抑制、防犯灯の増設など）
- ・地域の歴史資源を中心とした景観づくりの方向性・ルールづくり
- ・公共空間（道路や公園等）を活用したイベント開催
- ・商店街や商業集積地の活性化、にぎわいづくり

規約・会則の作成のポイントをご紹介します。

①団体の名称や活動地域、拠点の所在地

団体の名称や活動地域、拠点の所在地を明記します。
活動地域については、地図を添付する形でもよいです。

〇〇まちづくり会 規約

(名称)

第1条 この会は、〇〇まちづくり会（以下、〇〇会）と称する。

(活動地区及び事務所の所在地)

第2条 〇〇会の活動地区及び事務所の所在地は、次のとおりとする。

- (1) 〇〇会の活動地区は、別添のとおりとする。
- (2) 〇〇会の事務所は、△△△に置く。

②目的

まちのために「どんな将来像を実現・達成するための団体なのか」（地域のまちづくりに取り組む目的）を明記します。

(目的)

第3条 〇〇会は、~~~~~を目的とする。

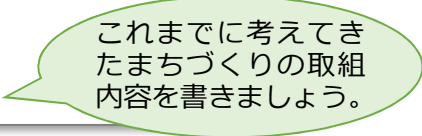
③活動内容

目的を達成するためのまちづくりの取組（活動内容）を明記します。

(活動内容)

第4条 〇〇会は、第3条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- (1) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- (2) △△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△
- (3) □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
- (4) ××××××××××××××××××××××××××××××××



④会員の構成

地域のまちづくりに取り組む仲間（会員）についての規定です。会員の種類や会費、入会・退会の方法を明記します。

(会員)

第5条 協議会の会員は、次に掲げる者で構成する。

- (1) 活動地区内の土地建物所有者、在住者又は在勤者で、第3条の目的に賛同し、協力する者
- (2) その他〇〇会が必要と認めた者

⑤役員についての規定

役員の種類やその役割、役員の選任方法や任期について明記します。

(役員等)
第6条 ○○会には、会長●名、副会長●名、運営委員●名、広報委員●名、会計委員●名、会計監査委員●名の役員を置く。
2 ○○会は、必要に応じて相談役を置き、意見を求めることができる。
(役員の職務)
第7条 役員の職務は、次のとおりとする。
(1) 会長は、○○会を代表し、会務を総理する。
(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは会長の職務を代理する。
(3) 運営委員は、○○会の運営に関する事務並びに会員、他団体及び市との連絡調整を行う。
(4) 広報委員は、自治会などの協力を得て○○会の活動内容を活動地区内及び周辺に広く周知する。
(5) 会計委員は、○○会の出納事務の執行管理を行う。
(6) 会計監査委員は、年1回、○○会の会計を監査する。
(役員の選任方法及び任期)
第8条 役員の選任方法及び任期は、次のとおりとする。
(1) 役員は、会員の互選により選任する。
(2) 役員の任期は△年とする。ただし、再任を妨げない。

役員の職務(役割)は、
役員の種類ごとに書
きます。

⑥会議の種類についての規定

総会や協議会、部会など、会議の種類や意思決定の方法などを明記します。

(会議の種類)
第9条 ○○会の会議は、総会及び協議会とする。
(総会)
第10条 総会は、会員及び○○会が必要と認めた者で構成し、会長が招集する。
2 総会は、会員の2分の1以上の出席をもって成立する。
3 総会の議長は、会長をもって充てる。
4 総会の議決は、会員の出席者数の過半数をもって決議する。
5 総会は、年に1回以上開催し、○○会で必要と認めた場合には臨時総会を開催できる。
6 総会は、次の各号に掲げる事項を審議し、決議する。
(1) 事業報告及び決算
(2) 事業計画及び予算
(3) 役員の選任
(4) その他○○会の運営に必要な事項
7 総会は、原則公開とする。
(協議会)
第11条 協議会は、会員と○○会が必要と認めた者で構成し、会長が招集する。
2 協議会の議長は、会長をもって充てる。
3 協議会の決定は、会員の出席者数の過半数をもって決議する。
4 協議会は、第4条に定める活動等を行う。
5 協議会は、原則公開とする。

総会や協議会のほかに
部会なども行う場合は、
その内容も明記します。

⑦団体の運営についての規定

経費の種類や会員の会費、会計年度などを明記します。

(経費)
第12条 ○○会にかかる経費は、会員の会費、寄付金、市等からの補助金、その他収入をもって充てる。
2 会員の会費は、年額□□□□円とする。
(会計年度)
第14条 会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。ただし、初年度は本規約の施行日に始まり△△△△年3月31日に終わるものとする。

地域にお住まいの方々へ、自分たちが考えたまちづくりの考え（計画）やまちづくり活動の内容を周知する方法（広報活動）や、まちづくりに対する理解や意見の求め方を紹介します。

●まちづくり通信等の作成、配布（広報）

まちづくり通信（新聞、ニュース等）を作成し、回覧や掲示、配布することで、地域にお住まいの方々へ周知する方法です。

ニュースの内容（例）

- ・まちづくり活動の内容や様子
- ・調査の結果の報告（アンケート等）
- ・今後の予定（活動や話し合いの日程等）
- ・仲間（団員等）の募集 等



▲ まちづくり通信の例

●まちづくり団体のホームページ・SNSの作成（広報）

まちづくり団体のホームページを作成し、団体の概要やまちづくりの計画などの内容、まちづくり活動の様子を周知する方法です。

また、気軽に情報発信する方法として、facebook やツイッター等の SNS もあります。



▲ ホームページの例

●説明会の開催（広報+意見の把握）

公民館等の大人数が集まれる広い施設を借りて、まちづくりの計画やまちづくり活動の内容を説明し、住民の方々から計画や活動に対する意見を直接いただく方法です。



▲ 説明会の様子

●ワークショップの開催（意見の把握）

地域にお住まいの方々やまちを利用する方々で集まって、まちの現状、気になる所や、まちの将来像について、話し合う機会（ワークショップ）を開催することも効果的です。

- ・ まちの良いところや問題点について話し合う →p.19~20
- ・ まちの将来像を話し合う →p.23~24



▲ ワークショップの様子

●アンケートやヒアリング（意見の把握）

地域にお住まいの方々を対象に、アンケートやヒアリングを行い、まちの魅力や問題点、まちづくり活動への意見を把握する方法です。



▲ アンケート調査の様子

まちづくりの計画・活動を広報するタイミングはどんな時？

まちづくり団体を立ち上げた段階のほか、定期的（春・夏・秋・冬の年4回など）に広報活動を行うことが望ましいです。

まちづくりの計画・活動を広報するタイミング（例）

- ・ まちづくり団体を立ち上げた時
- ・ 地域のまちづくりの計画策定の途中経過や最終案を確認してもらう時
- ・ まちづくり活動の内容や様子、これから取組むまちづくり活動の内容
- ・ 既に策定していた地域のまちづくりの計画や、取組んできたまちづくり活動の内容を見直した時

地域にお住まいの方々等から意見を聞く際には、アンケートやヒアリングが効果的です。ここでは、アンケートやヒアリングの手順を紹介します。

■ アンケートとヒアリングの違い

	アンケート	ヒアリング
方法	事前に作成した調査票を相手に渡し、記入してもらう方法です。	尋ねたい内容を相手に直接聞き、相手が答えた内容を記録する方法です。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 多くの人から、尋ねたい内容について回答をもらうことができます。 相手の時間、都合に合わせて、回答してもらえらるため、相手の負担が小さくなります。 	<ul style="list-style-type: none"> 尋ねたい内容について、時間をかけてじっくりと聞くことができます。 相手の回答の疑問点、気になることに対して、追加で質問をすることができます。

① アンケート・ヒアリングで尋ねる内容を考えよう

まず、相手から聞きたい内容を考えましょう。

- ・地域の魅力や問題と感じていること
- ・地域のまちづくりの計画やまちづくり活動の内容についての感想
- ・まちづくり活動への参加の意向

等

聞きたい内容が沢山ある場合は、これからまちづくりを進めていく上で本当に必要な内容のみに絞ることも大切です。

② アンケート・ヒアリングの調査票を作成しよう

聞きたい内容が決まったら、アンケート・ヒアリングの調査票を作成します。

ポイント

- ・質問文（尋ねる内容）はわかりやすく、場合によっては地図や写真を入れ、相手はその内容をすぐに理解できるようにしましょう。
- ・想定される回答を考え、いくつか選択肢をつくり、回答しやすいアンケート調査票にしましょう。
- ・自由解答欄をつくり、より多くの意見を聞けるようにしましょう。
- ・年齢や性別が把握できるような選択肢を設けましょう。

裏小路をよくなるための『裏小路まちなみづくりの指針(素案)』
について、ご意見をお聞かせください。

『裏小路まちなみづくりの指針(素案)』(以下、指針(素案)といいます。)、お住まいのみなさと裏小路の目指すまちなみを共有し、裏小路らしい建物等の考え方を示したものです。今後、裏小路周辺で建築等を行う場合には、この指針を参考にしたいだけるよう、ご協力をお願いする予定です。
指針(素案)に関するご意見やご質問がありましたら、お聞かせください。
※ご記入された本用紙は、同封する封筒に入れて、裏小路公園に設置する専用ポストに11月中にご投函ください。なお、切手は不要です。

お名前 性別 1男性 2女性 年齢 1 20歳未満 2 20代 3 30代 4 40代 5 50代 6 60代 7 70代 8 80歳以上

※1 無記名でご提出いただいても構いません。
※2 性別・年齢で該当するものに丸印(O)を付けてください。

1. 「目的と対象区域」について
本指針は、裏小路らしいまちなみづくりを目的とした共通の指針であり、指針が適用される対象区域は、協議会の活動区域としています。目的と対象区域について、ご意見をお聞かせください。

2. 「目指すまちなみ」について
「歴史・文化にふれあい、四季を楽しめるまちなみ」を目指すこととしていますが、あなたが思う裏小路らしさや、裏小路らしさを活かしたまちなみづくりについて、ご意見をお聞かせください。

3. 「目指すまちなみのイメージ」について
①指針(素案)では、4つの目指すまちなみのイメージをあげています。あなたが重要だと思う順番を教えてください。重要度が高い順に、()に1~4の番号をご記入ください。
() 歴史、文化を感じられるまち () 調和し落ちついた雰囲気のあるまち

▲ アンケート調査票の例

③ アンケート・ヒアリング調査を実施しよう

ポイント

- ・アンケート調査の時には、調査の票数や、アンケート調査票を回収する方法を考えましょう。
- ・ヒアリング調査の時には、相手の都合に合わせてるようにしましょう。無理にヒアリングをお願いするのは禁物です。可能であれば、事前に日程調整をしておくことが望ましいです。



▲ ヒアリング調査の様子

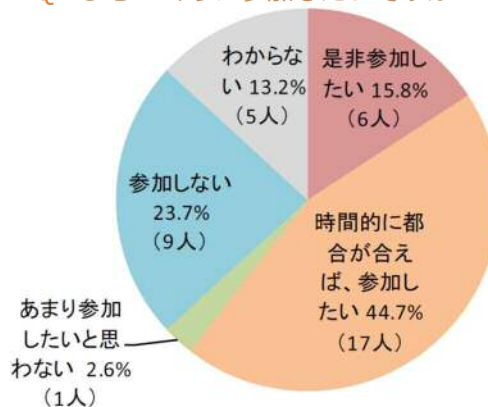
④ アンケート・ヒアリング調査の結果をまとめよう

回答が集まったら集計し、地域にお住まいの方々の考えをまとめましょう。

ポイント

- ・いくつかの選択肢の中から回答する内容については、各選択肢を回答された数を集計しましょう。集計結果は表でまとめるほか、グラフにすると結果がわかりやすくなります。
- ・ヒアリング調査の結果やアンケート調査の自由回答の結果については、同じような意見毎に内容を整理すると、わかりやすくなります。

Q. まちづくりに参加したいですか？



▲ 結果をグラフにした例

⑤ アンケート・ヒアリング調査の結果を報告、活用しよう

結果がまとまったら、地域にお住まいの方々に、アンケート調査やヒアリングの結果を報告しましょう。また、結果を報告する際には、結果を基に、まちづくりの計画やまちづくり活動にどう生かすのか報告すると、より多くの地域の方々に賛同してもらえるようになります。

ポイント

- ・結果を報告する時には、基本的に答えた人が誰なのか、わからないように配慮しましょう（調査の内容にもよります）。
- ・報告する時には、必ず協力いただいた方々へのお礼の言葉を書くようにしましょう。

「まちなみづくりに向けた指針」について

指針の方向性についてご理解いただいた一方、みちづくりを率先してやるべきとの声が複数ありました。また、建築・修繕を行う場合には、専門家等に相談ののってほしいとの要望がありました。

今後、協議会では指針に沿った“みちづくり”を検討していきます。また、指針の運用にあたっては、専門的な組織を立ち上げ、事前に相談できる体制をととのえる予定です。

＜アンケートでの主なご意見＞

- 協議会の示した内容に賛成する。
- 歴史的な雰囲気を感じられ安全な住宅街を維持するために趣きのある街路灯を設置してほしい。

▲ 調査結果の報告の例

さいたま市まちづくりガイド

令和元年 8月

さいたま市 都市局 まちづくり推進部 まちづくり総務課

〒330-9588 さいたま市浦和区常盤六丁目 4 番 4 号

電話番号：048-829-1444・1445 FAX：048-829-1976

E-mail:machidukuri-somu@city.saitama.lg.jp

URL:<https://www.city.saitama.jp/001/010/010/004/p065734.html>

